

マルケ

エミリア・ロマーニャ州



アドリア海



ITALY BY MARCHE
A REGION OF EXCELLENCE

マ ル ケ

逃かざる時間の刻み



問い合わせ先

旅行の際の予約、劇場の予約、運転手付ミニバスや車両の予約、ホテル予約、ガイド付見学など観光に必要な事項はイタリア・パイ・マルケ Italy by Marche まで:
tel: +390736818621/ fax: +390736812493 /e-mail: info@italybymarche.com (メール、ファックスは日本語でどうぞ!)
一般情報に関しては日本語マルケ州公式サイト www.italy-marche.info をご参照下さい。



写真考案・グラフィック・本文・翻訳・FotoItaly (もっとイタリア) - Roma www.mottoitaly.it

旅のモデル・テーマコース.1

ルネッサンスとラファエッロ: 芸術と歴史



世界遺産の古都ウルビーノでは華麗なるルネッサンス期の芸術を知る格好の機会です。ウルビーノのモンテフェルトロ家のフェデリーコ公爵はイタリア・ルネッサンスのシンボルの1人であり、ドゥカレ

宮殿を建築するために当時の芸術家達を招聘し、素晴らしい建築物として完成しています。現在はマルケ州国立美術館として、ルネッサンス期を象徴する傑作や1300~1500年代の作品が展示されています: ラファエッロ・サンツィオ、ピエロ・デッラ・フランチェスカ、パオロ・ウッチェッロ、ルカ・デッラ・ロピア、さらにはティツィアーノやルカ・シニョレッリ、フェデリコ・バルッチなど。

そして、サン・ジョヴァンニ礼拝堂の壁はヤコポとロレンツォのサリンベリ兄弟によるフレスコ画で装飾されています。天才画家ラファエッロの生家: ルネッサンス期の個人住宅の一例として見ても興味深く、また、彼によるフレスコ画と彼の父親が描いた作品も収められています。



マルケ州の貴族、コンティ・カロッティ家の歴史的私邸にて軽食。この館がヴィラ・リゾラ (島の別荘、という意) と言われるのは、メタウロ川の2本の支流には

さまれているからです。ここでは研究のため長年にわたって偉大な詩人トルクアート・タツンが滞在していました。

ここからそれほど遠くない所にウルバーニアという中世の町があります。ルネッサンス期には有数のマヨリカ陶器の生産地で知られていました。今日なお陶器芸術学校の本部として、また多数の職人が構える陶器店が点在しています。これらを訪れてみるのも陶器芸術に触れる絶好の機会でしょう。この地の芸術に浸った一日の終わりは、再びウルビーノに戻りレストランにてお食事ですめくります。



旅のモデル・テーマコース.2

歴史的別荘と庭園、ロッシーニゆかりの地にちなんで

ペーザロ は古代ローマ時代、フラミア街道沿いに造られた街です。16世紀から17世紀にかけてデッラ・ローヴェレ家の統治のもと最も繁栄しました。1500年代より発達したマヨリカ陶器製造はもとより、偉大な作曲家ジョアッキノ・ロッシーニの生誕地として有名です。毎年8月には世界的に知られたロッシーニ・オペラ・フェスティバルが開催されます。



この街のドゥカレ宮と庭園は必見、市民絵画館にはジョヴァンニ・ベリーニやマルコ・ゾッポ、ヤコベッロ・デル・フィオーレの作品のほか、ウルビーノやペーザロ製陶所のマヨリカ陶器などが置かれてあります。また、ロッシーニが生まれて幼少期に過ごした家も見学に値します。



ガンビーニ家の私邸宮殿は町の中心にあり、そこでの軽食: この館の床タイルや室内装飾はペーザロの典型的室内装飾例と言えるでしょう。

午後には歴史的庭園を訪問: ヴィラ・インペリアーレ

はフランチェスコ・デッラ・ローヴェレとエレオノーラ・ゴンザーガにより実現され、ブロンジアーノ、ラッファエッリーノ・デル・コッレ、ドッソ・ドッツイのフレスコ画が美しく施されています。また、ヴィラ・カプリーレは庭園内に洞窟や噴水をあしらっており、水の音が耳に心地良く聞こえてきます。これらの美しい庭園を後に、ローマ時代にファヌム・フォルトゥナエという名前を語源とするファーノ、そこは現在海水浴場として、さらにはアドリア海の重要な漁港となっており、ここでの魚介料理を賞味します。



これらはマルケ州を訪れる皆様におすすめするモデルコースの一例です。詳細はイタリア・パイ・マルケ Italy by Marche まで。





心地 良い調べが聞こえてきそうな田園風景が広がる、伝統がまだ多く残るなかにもモダンさがうまく調和をもって混在する。ここマルケ州は延々と続く丘陵やアドリア海、時が止まったかのような丘の上に点在する家々、刈り込まれてきれいな模様を見せる耕作地、古都に残る芸術の数々、マルケ州はイタリアでも賛美に値する州のひとつです。

ラファエッロやティツィアーノ、ペルジーノ、ブラマンテなどの珠玉の作品を訪ねたり、世界遺産に指定されたウルビーノの街を訪れる、美しく手入れされた類ない庭園を散策する、数知れないほどの歴史的劇場を見つけ出す、ロッシーニを生んだこの土地で堪能するコンサート、ワインに舌鼓を打つ、トリュフ、スローライフが息づく郷土料理の数々、長年の経験や伝統を生かす職人や芸術家たちの技に目を見張る・・・マルケ州が提案する旅のスタイルです。まだ観光客が訪れていない真なるイタリア、土地の人々の温かいもてなしとゆったりくつろげる環境は大都市の喧騒を忘れさせてくれる。きっとあなただけの旅が見つかるでしょう。

マルケ州はどこ?

マルケ州は中部イタリア東側にあるアドリア海とアペニン山脈の間、長靴型半島のふくらはぎに位置します。中部イタリアでも無類の美しさを誇るマルケ州は、まるで時が止まったかのような場所が多くあります。

空路と鉄道

日本からマルケ州へはアリタリア航空をはじめとしたヨーロッパ系航空会社、または日本航空、全日空などの日系航空会社と提携航空会社を組み合わせ、ヨーロッパの主要都市やイタリア国内ではローマ、ミラノ等を經由して州都アンコーナ・ファルコナーラ国際空港(ラファエッロ・サンツィオ空港)に入るのが便利です。

FSの名で知られるイタリア国鉄フェットロヴィエ・デッロ・スタート(Ferrovie dello Stato)は、国内はもちろんヨーロッパ各国からでもアクセスできます。イタリア主要都市ミラノ、ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマなどを結ぶ特急エウロスターEurostar (ES)が州都アンコーナにも停車します。ただし、全席指定なので事前予約が必要です。また、国内の主な路線を走るインテルシティー Intercity (IC)の急行列車は本数も多く便利です。その他、準急のエスプレッソ(Espresso)とインテレジオナーレ(Interegionale)、ローカル電車のロカレ(Locale)などがありますが、これらはマルケ州内及び州周辺の移動の際に使うことが多いでしょう。

アンコーナと主要都市間の距離:ローマ 291 km - ヴェネツィア 295 km - フィレンツェ 322 km - ペルージャ 208km - ミラノ 427km

ウルビーノ に行ったことがないのですか? 言ったことがない、と答えるのであれば、落度を感じなければなりません。なぜなら、あなたたちのイタリア文明の一次元が不足する結果になるからです。(カルロ・ポー)

ここは街が誇るモニュメントだけではありません。街に関するさらなる理解は、肌でじかに触れ、隠れた詳細に至るまでをも再発見する、ということなのです。それはちょうど扉から扉へ、階段を通り抜けたり、宮殿の中庭を目にしながら、目立たない小さな広場で風習や伝統、祭りなどを語る住人に出会ったりするようなものです。

今日、世界遺産のこの街はモンテフェルトロ家の統治のもと、最も壮麗なものとなり、フェデリーコ公爵は、この街をイタリア・ルネッサンス期の文化、芸術の主要地のひとつとしたのです。彼の有名な肖像画はフィレンツェのウフィツィ美術館に所蔵されています。また、偉大なふたりの芸術家ラファエッロと

ブラマンテの生誕地として、街中が芸術、美、詩にあふれています。街のシンボルはドゥカレ宮殿(15世紀末)が筆頭に挙げ

られます。その王侯貴族の館はルネッサンス建築を最高に表現したものと言えるでしょう。この建造物はフェデリーコ公爵のもつ二面、優秀な軍事リーダーとしての一面と教養に関する深い造詣をもつもう一面が投影されているかのように、軍事建築の中に市民的建築の要素が見受けられます。見学に外せないのはラファエッロの生家です。これは1400年代に建てられ、当時の家具なども残っており、そこで育った偉大な芸術家の一面に触れることが出来るでしょう。



ルネッサンス のゆりかごがフィレンツェならば、そのルーツはマルケにあたるでしょう。1400年代はウルビーノにてパオロ・ウッチェッロやピエロ・デッラ・フランチェスカが時代をリードする芸術として、のちにカルロ・クリヴェッリやロレンツォ・ロットが遠近画法を探究しました。16世紀前半にはルネッサンス礼賛はレオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロのほかにウルビーノの偉大な画家ラファエッロによって象徴されていきます。そのほかにも、315もの歴史的書斎は素晴らしい遺産としてその価値が十分に保存され、マルケ州を訪れる際の違った一面を知る上でひとつのアプローチとなるでしょう。



音楽愛好者なら、マルケには無数の楽しみがあります。州内に残る73の歴史的劇場: ペンナビリ、ウルビーノ、サッソコルヴァーロ、カーイ、ウルバーニア、オージモ、モンテマルチャーノ、カルトチエート、フェルモ等まだまだ挙げられます!: 音楽に聞き入る機会はこの州では多数あり、ミュージカル・イベントも盛りだくさんです。ペーザロでは「ウィリアム・テル」や「セヴィリアの理髪師」をはじめとした数多くのオペラを残した偉大な作曲家ロッシーニの生家を訪問するだけでなく、毎年7・8月にはロッシーニ・オペラ・フェスティバルの舞台となります。また、マチェラータではネオクラシック様式の大変美しいスフェリステリオ野外劇場にて夏の夜にマチェラータ・オペラ・フェスティバルが開催されます。10月にはカステルフィダルドでインターナショナル・アコーディオン・フェスティバルがあり、そこでは150種類以上の楽器が展示される博物館の訪問を加えるのも一考でしょう。



建築や芸術上、重要性の少ない町や村、宮殿、宗教建築物には、この州が誇る豊かで多様な自然が訪れる人々を迎え入れてくれます。ファブリアーノは、透かしの入った特殊な製紙が誕生した地であり、また、何世紀にもわたるハンド・メイド・ペーパーや製紙工業でも有名です。中世に築かれた城壁内に多くの芸術品が閉じ込められたイエージ、サン・レーオは断崖絶壁の上に荘厳な要塞が建立され、古くは幽閉地であった所です。モンテ・グリマーノの古い町とテルメ、ウルバーニアにあるミイラの墓地(死者の教会)、ロレートの「聖家」la Santa Casaは世界で最も重要な巡礼地のひとつです。アスコリ・ピチェーノの美しいボポロ広場にはこの街の歴史が凝縮されています。トラバーチンの石が彩りを加え、はるかな過去の遺跡により一層の魅力を増しています。紹介しきれないほどの多くの場所があります: きっとマルケの人々が誇りを持ってその土地の魅力とともに皆様をもてなしてくれることでしょう。





ガストロノミー&ワイン

では家庭料理が主役です。レストランでは昔ながらの方法で伝統的料理が堪能できます。新鮮かつ品質にこだわる材料の使用はマルケ料理の特徴と言えるでしょう。主な栽培農産物はファッコ（スペルト小麦）とオリーブです：オリーブ・アスコラーナはオリーブに肉や生ハムを詰めてフライにした名物料理です。マルケ州は海産物にも恵まれ、なかでも“プロデット”が有名です：魚介スープに自生のサフランを加えた色と風味に富んだ一品です。さらにはアニス酒入りのチョコレート。マルケの古いレシピが1940年に見つかっています。



典型的な田舎の食事はそのほとんどが森林で採れるものです：きのこ、狐の獲物、くるみや三大珍味のひとつトリュフでしょう。マルケ州には少なくとも16種類に及ぶトリュフが収穫されますが、特に白トリュフと黒トリュフの2種類が最も価値あるものです。生のトリュフを味わうならば、白トリュフは10月から12月にかけて、黒トリュフは12月から3月にかけて味わうのがベストでしょう。マルケ出身の偉大な作曲家ロッシーニの言葉に「食べる、愛する、歌う、消化する：実にこれら4つの普通の行動こそが人生なのです。」とあります。



ワイン、それだけの動機でもマルケ州は訪れるに値します：特に知られたローカルワインはヴェルディッキオの白ワインですが、その他にも統制原産地呼称(D.O.C.)ワインが多数あります：ピアンケッロ・ディ・メタウロ、コッリ・ペザレーシ、エシノ、コッリ・マチェラテージ、ファレリオ、サンジョヴェーゼ・デイ・コッリ・ペザレーシ、ラクリマ・ディ・モッロ・ダルバ、ロツ・ピチューノ、ロツ・コーネロはモンテプルチャーノ葡萄が使用されています。



自然&リテックス



今日のマルケ州は歴史的庭園の素晴らしい大地として健在しています。筆頭に挙げられるのは何と言ってもウルビーノにあるドゥッカード宮殿内のモンテフェルトロ公爵による中庭でしょう。後に貴族のヴィラ内の耕作地が進歩し、今日、これらの緑にあふれた広大で豊かな美しい庭園として訪れることが出来ます。

宝石箱のような自然美、松林、檜の木々、黄色い花をつけるエニシダ、ラベンダー畑の間を抜けるように続く散歩道ルートを歩いたり、バードウォッチングを楽しんだり・・・まさしく自然のオアシスです。ここはコーネロ山州立公園です（名前の由来はKomaròsコマロス = Corbezzolo コルベツツォロ、別名“海のさくらんぼ”）。眼下に広がる起伏に富んだ白い海岸、無数の洞窟や断崖は伝説を秘めてアドリア海に接しています。または、自然にちなんでのリラックスならば、サン・マリノから数キロの所に位置しているモンテ・グリマーノ・テルメ。ここではワインセラピーでリラックスできます。



フラサッソ鍾乳洞：幻想的な世界は水で描かれた素晴らしいおとぎ話。自然が創り出した芸術的な鍾乳石や石筍は約18キロにわたって広がっています。1971年に発見され、1974年より一般公開されました。これまでに1000万人余りの人々が訪れたヨーロッパで最も重要な鍾乳洞のひとつと言えるでしょう。約1時間の行程では、静寂のなか、鍾乳洞内はライトに照らされ乳白色に濡れて光っており、それらが生み出す陰影が何ともいえない幻想的な世界を創り出しています：石筍が柱のように天井を支えており、純度の高い水晶からできた石筍は、雪の結晶のような繊細さで輝き、大変美しい色をしています。



ホスピタリティー&ショッピング

並木道を突き当たると、目の前に広がる芝生や草花とともに見えてくる古い館、そこには「マルケ・セグレート」"Marche Segrete"のスピリットがあふれています。



このグループは、現在も住まいとして使われている歴史的に由緒ある館や公園、お城、別荘や宮殿などを訪問する機会を皆様に提供します。素晴らしい芸術遺産、伝統や過去の生活スタイルがそのまま残された建築物を通じて、この州の隠されたストーリーに出会えることでしょう。



もし魚介類にこだわりたいと言うならば、行き先にファーンを選んでみてはいかがでしょうか？：プロデットと呼ばれる伝統的なレシピの魚貝類スープ、豊富な貝類、イカ、メルルツォ、ヒラメなどのアドリア海でとれる魚はオープン焼き、包み焼き、塩焼きと調理方法もさまざま。ローマ時代にファヌム・フォルトゥナエと呼ばれたこの街は、今日海水浴場として、またアドリア海では重要な漁港のひとつになっています。この土地には文化や歴史にまつわる遺産が保存されています。街の宝石であるフォルトゥーナ歴史的劇場、アウグストゥス帝の門、マラテスタ要塞など、その他多くの見所をぜひご自身で見つけてください。

豊かな文化的伝統、マルケ州にはまだ職人による伝統手工芸が生き残っています。古くから伝わる伝統手工芸は大変根強いもので、文化や民間伝承により相違が生まれてきます。典型的な例としては、トレンティーノの皮革、ファブリアーノの製紙、モンタッポーネとマッサ・フェルマーナの帽子、マチェラータの手織り物、オッフイダのトンボロ編みレース、メタウロ峡谷の陶器など。マルケ州は多くのスタイリストの地でもあります。ピエロ・グイディ、ディエゴ・デッラ・ヴァッレ、チューザレ・パチョッティ、ナザレノ・ガブリエーレなど。銀細工デザインのおッタヴィアーニはトリノで開催される2006年冬季オリンピックのトロフィー製作を担当しています。

